

## 令和7年度 第2回 岡山市環境政策審議会概要

1 日時 令和8年1月15日（木曜日）14時～16時

2 場所 分庁舎6階環境局会議室

3 出席者

委員：赤井委員、市委員、黒崎委員、長門委員、松井委員、三宅委員、吉田委員

岡山市：環境局局长、環境局次長、環境企画総務課長、環境事業課長ほか関係職員

事務局：環境企画総務課

4 傍聴者0名

5 主な意見

(1) 岡山市一般廃棄物処理基本計画の策定について

関係課より説明を行ったのち、意見交換、質疑応答が行われた。

主な内容は以下のとおり（●は委員、○は当局を示す）

●地域において食品ロスの削減を担う人材サポーターの育成についてどのような形で活用されるか。

○我々が地域の出前講座のようなところに出向いた際に、そういったところでマナー知識を紹介し、地域の方にもそういったものを受講していただける機会が設けられたらなどは考えております。

●未利用資源の資源化に食品廃棄物、剪定枝、紙おむつとあるがどのような形ですか。

○国のほうで示されている例示として、この3つ。食品廃棄物については、肥料化、堆肥化のような形でのリサイクル、剪定枝等は基本的には堆肥であるとか肥料のような形、農業用の資材としていくもの、また紙おむつはマテリアルリサイクル、破碎して紙であるとか高分子凝集剤のようなものを回収していくような形を検討しております。

●食品ロスの削減の平成27年度比で令和17年度が37%という、家庭系で34.3、事業系で43.6というのは達成可能な積み上げか。

○家庭系については、ごみの減量と合わせて何とか達成できるんじゃないかと。事業系については、これからの努力によるものかなということ考えております

<座長による審議会の総括>

●リユースプラットフォームの普及啓発をタイトルにするという点と、あとは食育は分野を一応網羅的にカバーするという点。

8ページでいうと「効率的に」を「効果的に」に文言を変えたほうが良いというところ、あとは民間事業者との連携が結構連発されていて、でも具体的な内容になってないなど、タイトルを具体的にちょっと変えていただいたらというところかとは思いますが。あとは、資源化施設も分かりやすく表現するというところ。

海洋プラスチックごみについては、多分今までもいろんな取組をされているとは思いますが、そういった取組を踏まえて表現を拡充するというような形。

なかなか高齢者はネットによる情報収集が難しいかなというようなご意見はございますので、従来からは紙ではやっているかと思うんですけど、また高齢者というところの視点でご検討いただければと思います。なかなか紙でないと同じにくい部分はあるのかなというところですね。従来型プ

ラスアルファ何かできるかというところ、SNSの視点は入れておくといい。

事業者における食品ロス削減の推進ということで、分かりやすい成功事例をつくってあげるとい  
うのはあるかと思えますし、特に大規模に排出されている事業者さんというところで、そういったと  
ころから優先的に何か産官学連携でもいいんですが、そういった取組ができるといいんではないか  
なとは思っています。

課題としてあるのは、食品、フードバンクさんとよくお話をするとお金と人手が足りないというの  
は必ず言われる。お金も人もうまく持続的にできるような仕掛けというのは、もう考えないといけな  
い時期には来てるのかなとは思っています。

食品ロスの削減推進サポーターについて、具体化としては地域とか公民館との連携というのも視  
野に入れて具体化、計画に入れるなり運用として取り組んでいただきたいということかと思えます。

可燃ごみの古紙の適正排出が一番の課題は多分雑紙だと思うので、雑紙の専用袋を全戸配布する  
とかというのは加古川市でやってますから、それを1回だけやって、あとは自分の袋を使っ  
てくださ  
いというようなやり方もあるかもしれない。

目標値について、全国レベルでも一番高いぐらいのリサイクル率を設定をしているという状況で  
すね。主に古紙、従来どおり資源化はやるんだけど、古紙と焼却灰の資源化で40%を目指しま  
しょうということ。食品ロスのほうは、国の目標値に準じた形で令和12年度は設定して、令和17年  
度はまた再検討という予定になります。

いろんなご意見をいただきましたので、それを反映させた上で計画としてまとめてパブリックコメ  
ントにかけるということを予定しておりますが、そういった形で進めさせていただいていく。